

③スポーツへのアクセス向上～普及・強化～

全世界「日本ラグビーフットボール協会との協力隊連携派遣 JICA-JRFUスクラムプロジェクト」

2013年7月～継続中
(2023年9月現在)



上)インド・スリランカの協力隊員の
教え子によるフレンドシップマッチ
下)隊員と教え子たち(インド)

背景/課題

2019年に日本でアジア初のラグビーワールドカップが開催された。大会成功を目指す日本ラグビーフットボール協会(JRFU)とスポーツ分野の拡充を目指すJICAが連携し、ラグビー隊員の派遣「JICA-JRFUスクラムプロジェクト」を開始した。JICA海外協力隊の派遣プロセスの段階毎に応じた支援をJRFUより得つつ、アジアを中心にアフリカ諸国にも隊員を派遣し、ラグビーを通じた健全な青少年の育成を行っている。同時に、隊員経験者がラグビー人材として活躍することも視野に入れ、人材の育成を行っている。

目的

- 国際統括団体ワールドラグビーが定める「ラグビーの5つの価値」(誠実・情熱・結束・規律・敬意)に加え、日本独特の「No Side」「One for All, All for One」の精神を開発途上国の青少年に伝える。
- アジア地域を念頭に置きながら、ラグビーを通じて「アジアを繋ぐ」ことを目指す。

活動内容

- 学校・大学での指導、巡回指導による普及活動、ナショナルチームへの指導を実施

成果

- 8か国に79名の隊員を派遣し、ラグビーの普及活動や代表チームへの指導が実施された。
- 大学連携派遣が実施された(流通経済大学/インドネシア、同志社大学/インド)。
- マダガスカル女子7人制代表はW杯出場を果たし、隊員もコーチとして帯同した。